様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：３７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０４５１４

研究課題名（和文）奉安殿の教育社会史的研究－学校と地域の連携に注目して－

研究課題名（英文）Study of the history of Education regarding HOUANDEN-Focusing on cooperation between school and community-

研究代表者
佐喜本　愛（SAKIMOTO, Ai）

九州産業大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：９０５５２２１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は福岡県京築地域に6つの奉安殿と1つの奉安庫が残存していることを明らかにした。この6つの小学校の奉安殿は、GHQの命令に従い小学校から「撤去」され、校外へ運び出されていた。その目的は戦没者を祀る慰霊塔として使用することだった。
　これら残存奉安殿は石造りであるという共通点があり、特に注目すべきは、その一部だけではなく、台座を含めて戦前の形＝原形が維持されていたことである。単に戦没者の位牌を入れる「箱」以上の意味が付与されていたと推測できる。また、この地域でも奉安殿は地域の有力者の寄附で建設されており、小学校と行政施設を隣接させた村行政計画の中心として奉安殿が位置付く事例もあった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、戦前の天皇制教育の象徴として位置づけられ、GHQの指令により撤去が義務づけられた奉安殿が、福岡県京築地域に6つ残存していることを確認し、それらが戦後から戦没者の慰霊塔として使用されてきたことを明らかにした。
　本研究で明らかとなった奉安殿の一つが行橋市の戦争遺跡して認定（2018年）されたように、奉安殿は地域の重要な文化財として注目されている。本研究はその意味づけに寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：The findings of this study are follows:(1)In Keichiku area of Fukuoka prefecture, there are 6 HOUANDEN and 1 HOUANKO.(2)It had been removed and relocated off-campus according to GHQ orders.Its purpose was to serve as a memorial to worship the war dead.(3)They have a common point of being made of stone.and the prewar shape was maintained.(4)It was positioned as the center of the region.

研究分野：日本教育史

キーワード：奉安殿　小学校　地域　戦争遺跡　天皇制　戦後史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

奉安殿の第二次世界大戦後の処置については，佐藤秀夫氏，小野雅章氏らによって研究が進められ,次のことが明らかとなっている（佐藤秀夫『続現代教育史資料』教育（一），（二）（みすず書房，1994 年,1996 年），小野雅章『御真影と学校-「奉護」の変容-』（東京大学出版会，2014 年）。

奉安殿の措置は，連合国軍の強い方針により徹底的な排除が実施された。文部省は 1945 年 12 月の段階では奉安殿の神道的象徴の除去を命じただけであったが，翌年１月に神道的象徴の除去ばかりでなく「神社様式奉安施設」の撤去を決定した。さらに地方軍政部が奉安殿の全面的撤去を求める通牒を発したことにより，文部省は同年６月に校舎外にある奉安殿については「神社様式」の有無を問わず全面撤去を命じる方針に転換し，これを受けた各都道府県は遅くとも同年 7 月中に関係機関に奉安殿撤去に関する通牒を発した。

こうして政策上，奉安殿の撤去が義務づけられたにも関わらず，奉安殿が残存しているところがある。この事実について佐藤秀夫氏は「解体ではなく『廃物利用』として戦災で焼失したり老朽化してしまった神社や稲荷社の神殿に移設・転用された例」があったと記しているが（佐藤秀夫同上），近年，その残存状況に関する調査が進められている。

例えば，清水啓介『現存奉安殿調査』（私家出版，2010 年）樋浦郷子「歴博に奉安殿がきました」『往来』第 226 号，2017 年），白柳弘幸（研究ノート）「東京都と神奈川県の奉安殿遺稿調査」『法政史学』（法政大学史学会，第 68 号，2007 年），大嶋奈美「奉安殿の調査研究その１　長岡市内に残存する３つの奉安殿」『日本建築学会北陸支部研究報告集』（日本建築学会北陸支部，第 50 集，2007 年），斎藤広通「宮城県内奉安殿の研究（その１）仙台市合同奉安所」『日本建築学会東北支部研究報告集』（日本建築学会東北支部，第 80 号，2017 年）,高松敬「埼玉県に残存する学校内奉安殿について」『学術講演梗概集』日本建築学会（日本近代：近代和風（２）建築歴史・意匠 2013 年度日本建築学会大会（北海道）学術講演会・建築デザイン発表会,2013 年）,熊本の戦争遺跡研究会『熊本の戦争遺跡』（創想舎,2010 年）などである。そのほか，インターネットサイト上の記述で紹介されるものを含めればかなりの数の奉安殿が全国的に残っていることが推測される。

各小学校に建設された奉安殿は地域・小学校が自主的・主体的に建設を推進したものであり，学校関係者の意向を反映して建設時期や形も様々であった。そして戦後に「撤去」命令があったにも関わらずそれが各地に残存する事実からは，「撤去」の解釈もまた多様であったことが推察される。御真影教育勅語の「奉護」という共通の目的のもと登場した「奉安殿」という〈モノ〉そのものの建設,維持,撤去に着目することは，天皇制教育の文脈とは異なったさらに豊かな歴史像の提示に繋がるのではないだろうか。

２．研究の目的

このように奉安殿は，戦前の教育を物語る戦争遺跡や負の遺産として歴史学，建築学等の面から注目されつつあり，各県の教育史等でも若干の記述がある。例えば,『鎌倉市教育史』（鎌倉市教育委員会，1974 年）や『占領下の山形県教育史』（佐藤源治，高陽堂書店，1980 年）では「お稲荷さんの祠として鎮座することになった。」こと，「撤去のおくれた学校があちこちにあった」ことが記述されている。その他，個別残存状況の調査報告があるが,「本来残っていないはずのものが実は存在している」という点に価値を見いだされた事実発掘にとどまり，歴史叙述を変化させるような域には至っていない。

筆者は，これまでに残存する奉安殿として６つの事例（私立和田山小学校（現佐賀県唐津市），福岡県八女郡仁田原小学校，福岡県直方市下境小学校（灯籠のみ），長崎県佐世保市八幡小学校，福岡県行橋市仲津小学校，福岡県築上郡下城井小学校,福岡県京都郡祓郷小学校）を紹介した。そこで，本科研課題においては，仲津，祓郷，下城井の各小学校がそろって福岡県京築地域に位置し，さらに他にも同地域に奉安殿が残存していること，すなわち一定地域に奉安殿が集中して残存している事実に着目し，当該地区の調査を実施した。そして,一つ一つの残存状況,「解体」事情を各校ごとに確認することを目的とした。最終的には,人々にとって奉安殿がどういう存在であったのかを明らかにすることを試みる。

３．研究の方法

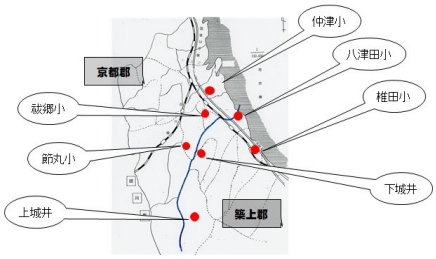
本研究は，福岡県京築地域を研究対象とし，奉安殿の残存状況を調査する。戦後の奉安殿は「撤去」されることが前提になっているため，意図的に残されるにせよ，残存という出来事が積極的に記録に残されるとは考えにくい。事実，そのような公式文書，学校文書は管見の限り確認できなかった。

よって，まず，京築地域の地方史，各小学校の百年史等すべてに目を通し，奉安殿に関する記載を確認する。また，築上町および戦前に限定されるが豊前市立図書館所蔵の『築上新聞』の奉安殿に関する記載を探し，当該地域の奉安殿建設当時の有り様を確認する。

文書史料のみならず，既に存在が記述されている残存奉安殿を確認に行くとともに，それを手がかりに，当時を知る人への聞き取りを中心に，奉安殿の残され方（管理主体，用途や形態等）の有り様を描くことで課題に迫っていくものとした。

４．研究成果

（1）　福岡県京築地域には残存奉安殿が６つ，奉安庫が１つ存在していることを明らかにした。



○京都郡
①仲津小学校

②祓郷小学校

③節丸小学校

○築上郡
①上城井小学校

②下城井小学校

③八津田小学校

④椎田小学校（奉安庫）

（2）戦後の用途や移設場所の多様性

仲津，祓郷，八津田，下城井，上城井，節丸小学校では，GHQ の「撤去」命令に従い，校外に奉安殿を運び出すという「撤去」作業を行っていた。そして，節丸以外には戦没者を慰霊するという共通の目的があったことが確認できた。ただし，その使用方法が統一されていたわけではなかった。奉安殿の前で慰霊祭を行う場合もあれば，そうしなくなったケースもあった。移設場所も山の中腹や木が覆い繁るあまり人目のつかない場所，一般道路沿いの地域住民の目にとまる場所，神社の境内などそれぞれであり，維持管理者も遺族会，地区，個人所有というように同じ地域でも多様であったことが明らかになった。

（3）共通した「残され方」＝原形が維持された石造り（妻切造妻入）の奉安殿

本地域に残っている奉安殿はすべて神明造ではなく，石造りという共通点を持つ。同地域の白川小学校（木造神明造）は「敗戦，あれ程敬っていた奉安殿をあっさりと焼き払った」とあるが（『苅田町立白川小学校　創立百年誌』(1978 年)），石造りの場合，「焼き払う」ことはできない。単に頑丈であるというだけではなく，パーツごとに解体・分解でき，そして組み立て直すことができる特徴があった。仲津，祓郷，八津田にはそれを可能としたであろう「石工」の名が奉安殿寄附者とともに刻印されているが，建設時だけでなく，戦後もその役割が大きかったことが推測される。さらに指摘するべきは　用途や移設場所に多様性がある一方で，すべてその原形がほぼそのまま残されている点である。文部省「御真影奉安殿の撤去について」（1946 年通牒発学二五〇号）では「撤去が非常に困難なものはできるか

ぎり原形を止めないやうにすること」とあるが，本地域では原形をほぼ維持している。八津田の例がそうであったように時間をかけて，段階を踏んでまで<わざわざ>「原形」を復活させていた。もう御真影も教育勅語も入れることはないのに，である。それに関わって，忠魂碑があるにも関わらず，台座をセットとした奉安殿を慰霊塔とした事例などは，単に位牌を納めるハコが必要であったのではないことを示しており注目すべきである。

（4）建設当時における地域社会における奉安殿の位置づけ

地元新聞の報道からは，奉安殿はその町，村の関係者が建設することに意味が見いだされていることが読み取れる。個人名と寄付額をセットに報道しながら「寄付」「寄贈」であることが強調され，「美挙」として報道されていた。地域の有力者は奉安殿を「利用」して地位，名誉なるものを獲得することができた。また，八津田の場合，学校と行政施設を隣接させた村行政計画の中心として奉安殿が位置づけられ，機能したと思われる。御真影教育勅語「奉護施設」という本来の目的を前提としながらも，それを超えて，村のシンボルとして意味を有した奉安殿の姿を確認できた。この点，歴博基盤研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」「御真影奉護」の歴史と現在―奉掲所・奉安庫・奉安殿―（国立歴史民俗博物館，2019 年 3 月）において報告した。

本科研課題を通して，福岡県京築地域の人々は奉安殿という建造物そのものに価値を見いだしていたこと，そしてそれは「残す」という形で具現化されていたことが確認できた。このように奉安殿の建設，撤去のプロセスを追うことで見えてくるのは，天皇制イデオロギー注入装置としての意義を前提にしながらも，それとは別位相の奉安殿の歴史であり，今後も丹念に事例を積み重ねていく必要性があるだろう。調査対象地域の拡大を含め，今後も継続的に調査・分析をすすめていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 佐喜本愛	４．巻 第70号
２．論文標題 北部九州（行橋・築上郡）における奉安殿残存状況調査	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『九州産業大学国際文化学部紀要』	６．最初と最後の頁 21－27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 1340-9425	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐喜本愛	４．巻 第69号
２．論文標題 戦後における学校と地域の接続のあり方について－北部九州（行橋・京都郡）に残る奉安殿－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『九州産業大学国際文化学部紀要』	６．最初と最後の頁 71～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 1340-9425	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐喜本愛	４．巻 第34号
２．論文標題 京築地域に残る「奉安殿」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『美夜古』（美夜古郷土史学校）	６．最初と最後の頁 58-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐喜本愛	４．巻 第75号
２．論文標題 奉安殿の戦後史－仲津小学校・下城井小学校を事例として－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『九州産業大学国際文化学部紀要』	６．最初と最後の頁 105-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 1340-9425	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐喜本愛
２．発表標題 奉安殿の残存－福岡県京築地域を事例として－
３．学会等名 教育史学会（第62回大会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考